

3月11日午後発生した東北地方を中心とする大地震にて、被災された方々には心からのお見舞いを申し上げますと共に、犠牲となられた方々に対しまして哀悼の意を表します。

害の悲しみとその恐怖はいかほどか、ご心中を察して余りある状況でございます。現在も救助を待っておられる被災地の皆様の安全と、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

平成7年に阪神・淡路大震災を経験した当院としましては、現地の皆様の震災被

兵庫医科大学病院 病院長 太城力良



(各チームの氏名欄◎はリーダー、また文中では職種、役職、敬称は省略しています。)

兵庫医科大学病院は阪神間の基幹病院として、また、災害拠点病院として、DMAT(災害派遣医療チーム)を派遣、引き続き救護医療チームを被災地に派遣しました。

## 兵庫医科大学病院の救護活動 〜大震災からの復興へ向けて〜

平成23年3月11日午後2時46分、未曾有の大震災が東北地方を襲いました。震源地から遠く離れたこの西宮市でも非常に強い揺れを感じ、3か月弱経った今もなお被災地には大きな傷跡が残っています。この大震災からの復興に向けて、日本国内はもとより世界中の支援が東北地方に注がれています。

### DMAT

医師	◎久保山 一敏
〃	山田 太平
看護師	山田 裕基
臨床工学技士	富加見 教男
放射線技師	源 貴裕

3月11日、震災当日の夜にDMAT派遣を決定。翌12日早朝に伊丹空港から自衛隊機で岩手県花巻空港へ出動しました。現地では空港内に特設された「SCU(広域搬送拠点医療管理所)内で医療活動に従事し、被災地から搬送されてくる患者さんの中でも重症度の高い患者さんを被災区域外の医療機関へ搬送する任務にあたることになり、13日、自衛隊機により花巻空港から羽田空港への航空搬送を行いました。

これについて「当院 DMATが、実災害派遣で本邦初のSCU運営および広域医療搬送の一端を成し遂げたことを誇りに思う。」(源)、「花巻空港から羽田空港まで、自衛隊機による人工呼吸器装着患者の搬送を受け持つことになったが、医療機器を専門に扱う臨床工学技士が人工呼吸器の動作確認を行いながら付き添うことで、安全に被災地外へ搬送することに貢献できたのではないかと考えている。」(富加見)と、当時の



活動の重要性を振り返っています。

DMATは主に急性期の初期医療を行うチームとして組織されていますが、この度の震災は津波による被害が大きく、「これまで経験したDMAT訓練との違い、遠方被災地で活動することの難しさ、被災者対応の難しさ、DMAT隊員のあり方、医療資器材準備の重要性、機動力の重要性を感じ、「これらの経験を無駄にしないよう日々努力したい。」(山田裕)、「DMATならではの急性期活動を行えたが、今回の震災は阪神大震災より時間的・地理的な広がりがあると大きい。DMATメンバーならではのやり方で、長期にわたる支援ができないか考えさせられている。」(久保山)と、これからの課題もまだまだあるようです。

### 救護医療チーム A班

医師	◎川端 正明
〃	橋本 篤徳
看護師	波々伯部 公美
〃	清水 真幸
薬剤師	田中 邦佳
事務員	坂田 英敏

DMATとは別に、被災地における医療行為が必要不可欠であると判断し、3月15日に兵庫医科大学病院の救護医療チーム「A班」を編成。早急に現地へ向かうための車両を手配し、16日朝出発しました。夕方、福島県の避難所に到着しましたが、兵庫県の医療機関は宮城県へ救護班を派遣することが決まったため、急遽、兵庫県の医療救護チームの先遣隊として宮城県へ移動しました。



宮城県庁を訪れ、今後の医療活動に関する打ち合わせを行い、避

難所である石巻市立鹿妻小学校の保健室を診療所として医療活動を開始しました。

「救護所である鹿妻小学校に着いた時、有志で活動されていた地元看護師さん達が、「私達、やっと家に帰れるんですね」と言っていて抱きついてこられた時に、来て良かったと実感しました。第一班という事もあり、情報の錯綜や通信基盤の確保、物資内容、移動経路の確保等、さまざまな問題がありました。今後の活動に活かしたいと思えます。」(清水)

17日の午後から診療を始めるにあたり、診療を行うために必要なルールや配置などを決めることから始めなければなりません。18日までに163名の方の診療を行うことができました。19日には再び宮城県庁を訪れ、避難所における不足薬剤のリストを提出するなど、診療所でのさまざまな問題を報告し、20日に帰院しました。

「Aチームが被災地入りした時点での行政における情報の掌握は十分でなかったため、避難所における患者数、不足薬剤など医療の現状報告はとても重宝されました。救護チームにとって、救護活動はもちろんですが、情報の伝達も重要な使命であると今回の災害派遣で強く感じました。」(田中)

「医療にかかわる事務員は、患者さんとのコミュニケーションも含め、基本的な問診・病状把握ができる能力を備えているべきと感じました。また、今回のような大規模災害に際し都道府県単位で救護支援する場合、災害用統一カードが必須であると強く感じました。」(坂田)



「被災地『石巻』で震災当日から救護にあたっていただいた看護師さんからメールをいただきました。(別途掲載)思いがけないメールに目頭が熱くなり、兵庫医科大学病院の素早い決断と行動が正しかったと実感しました。」(川端)

### 救護医療チーム B班

医師	◎美内 雅之
〃	河合 光徳
看護師	窪岡 由佑子
〃	千島 佳也子
薬剤師	東 剛史
事務調整員	絹川 武俊

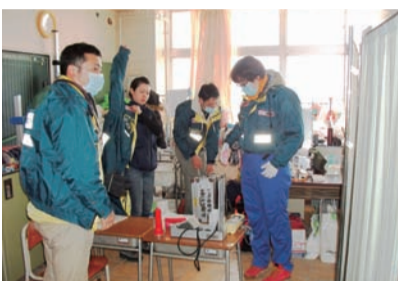
継続した医療支援が必要と判断し、3月16日にA班の後続となるB班を編成、18日から3日間の予定でB班を宮城県へ派遣しました。同日夜、花巻空港から陸路で仙台に到着、鹿妻小学校における診療の流れや医療材料、医薬品の過不足などA班から引継ぎを受けました。19日より鹿妻小学校にて医療活動を行い、20日には兵庫県から派遣された県立尼崎病院のチームと合流し医療活動を行い、2日間で約300名の診療を行いました。21日に宮城県庁へ活動報告を行い、B

班としての救護活動を終えました。

「被災地の救護医療活動を終えた後に一番感じた事は、小児用の薬剤をもう少し準備して持って行けば、幅の広い治療を提供出来たのではないかとこのことです。それでも、限られた薬剤で医師と相談し心急的な処方や、環境が整わない中で看護師や事務の方と協力して医療活動が出来た事は経験になりました。」(東)

「持参した診療記録用紙が当院で日常使用している外来診療録で、避難所診療では非効率であった。状況を考慮した診療記録用紙を事前準備していなかった事が反省点として挙げられる。病院職員の持つべき基本精神を再確認する事が出来たと思う。大規模災害の状況下では非被災者こそ『頑張る』必要がある事を学んだ。」(絹川)

メンバーからのコメントの中に、事前に用意ができていれば、より充実した救護医療活動ができたかもしれないとあり、す。しかし、



A班やB班が医療活動を行っていた当時、ライフラインはもちろん固定電話や携帯電話もまだ使用できない状況でした。これからも続く救護医療活動において、この教訓を活かすべくですが、情報を得ることができなくとも救護活動に出勤し、多くの方に安心を与えたことに大きな意義があったはずだと思えます。

### 救護医療チーム C班

医師	◎舩谷 元丸
〃	井上 朋子
看護師	丸山 美津子
〃	村井 陽一
薬剤師	中山 雅裕
事務員	松本 知之

宮城県から兵庫県への救護医療要請に基づき、兵庫県が作成したスケジュールに則り、後続班となるC班を編成、4月4日から5日間の予定で出発しました。山形空港からレンタカーを利用して、午後、鹿妻小

学校に到着後すぐに医療活動を行いました。「地震発生3週間後に現地入りしました。すでに慢性期患者さんの



対応が主となっており、救命の看護師として何が出来るかなど不安を抱えたまま活動が始まりましたが、医療資機材の無い場所での診察や、家族を失った方への対応は、普段から行っている初療看護に類似していたことから、落ち着いて救護活動を行うことが出来ました。」(村井)

「慢性疾患の患者さんへ代替薬が処方されることが多いため、服薬指導の重要性を再認識しました。今回の救護医療活動は、薬剤師としての仕事をみつめなおす貴重な経験になりました。」(中山)

患者さんへの直接的な治療よりもコミュニケーションをとり、ゆっくり話を聞いてあげることが精神的にも安心してもらうことが大切な時期になってきたようです。「時間に余裕があるときは体育館な



どに避難している方々に声をかけて回り、話を聞いたりしました。また一日一食の炊き出しでは摂取栄養素にも偏りがあると感じたために、避難所内の方々の栄養状態の聞き取り調査を行い、自衛隊員に対応をお願いしました。」(舩谷)

「被災地の方たちが本当に欲しているものは何かを考えながら臨機応変に対応していくことが重要であると感じました。」(松本)

予定の5日間のうち4日間の救護活動を終え、翌日の午前の診療、引継ぎの後、帰路へつくはずが、7日午後11時32分に最大余震(震度6強)が発生しました。8日も避難所で診療活動を行いました。引継ぎを行う県立病院チームが余震の影響で遅れ、また、飛行機の都合で帰ることができず、山形県内で1泊した後9日夕方帰路につきました。

「被災地に入ったのは震災後2ヶ月近くが経過した頃で、事前情報では鹿妻小学校の避難者数や救護室に受診する患者数が減少傾向にあるとのことでした。しかし、周囲の環境、特に医・食・住に関する環境はまだまだ改善が必要な状況で



「当面の急性期患者に対する医療支援が必要な時期は過ぎましたが、地域の医療機関復興の遅れなどの問題も多く、被災者の疲弊の大きさを感しました。今後は心のケアや寄り添うケアの必要な時期に来ていることも実感しました。」(小西)

5月2日の午後から医療活動を行いました。慢性的疾患への投薬による治療行為は比較的薬剤の供給が安定していることもあり、安心できるようにしました。」(中村)

C班が救護活動を行っていた時、診察にいられたおばあさんと一緒に

診察にいられたおばあさんと一緒に

に写真を撮っていたそうです。その時の写真をお渡しするため持参していたところ、D班の最終日にあたる5月6日に診療所に来られたそうです。

「兵庫医大Cチームの方と記念写真を撮ったおばあちゃんにその写真を渡した時、ほんとうに嬉しそうに笑顔とともに、くれぐれも兵庫医大の方々によくお伝えくださいと言われ、感動しました。」(元嶋)



今回当院が継続して鹿妻小学校での医療活動を行っていることで、A班が訪れたときに看護活動をされていた看護師の方と再会することができました。

A班の到着を心より喜んでいただいたときのお気持ちは今も変わらず持ち続けていただいているようです。ご自身にも小学生のお子さんがいらっしゃるようですが、お子さんとそのお友達が協力してA班のメンバーにワッペンを作ってくれました。



また、このたびは歯科医師が同行して、通常の診療行為に加え、口腔ケアも行いました。口腔ケアが疎かになると、特に高齢者の方は誤嚥性肺炎を発症することが心配されますが、その不安も解消していただけたことと思います。

「震災から約2か月、徐々に医療支援を撤退していく方向の状況と、実際の現場ではまだまだ支援を必要としている現状とのギャップを実感しました。細くても長く継続した支援が被災地の方々の支えになるんだと思いました。」(片岡)

当院と被災地は遠く離れていますが、震災に対する取り組みや1人でも多くの方を助けたい、安心を与えたいという気持ちは一緒です。今回鹿妻小学校で共に医療活動を行ったことがきっかけで、お互いに強い絆が生まれました。

「これからも支援活動は長く続きます。人と人との絆を大切に東北が復興するまで『がんばろう！日本！』を続けましょう。子供たちの笑顔が続きますように。それだけが願いです。支援に行っただけの私が逆に鹿妻小学校の皆さんにたくさん元気を頂きました。ありがとうございます。」(A班 波々伯部)

震災後、全国から被災地へ医療救護チームが駆けつけました。

その中で、宮城県石巻市立鹿妻小学校へ救護に向かった兵庫医科大学の医療チームに大きな期待と安心を感じていただけた被災地の看護師さんからいただいたメールです。

通信手段もままならない状況下で、日々過酷な生活を強いられる中、神戸新聞社を介して連絡をいただきました。

以下、ご本人の承諾を得て、その文章を掲載させていただきます。(文中2ヶ所の「\*」は文字変換非対応文字で判別できなかったものです。また、救護チームのことをDMATと表現されています。)

私は今回の東日本大震災で被災地、石巻市に住む者です。3月11日から3月17日まで宮城県石巻市の鹿妻小学校で地元の間人として微力ながら救護活動に携わりました。

被災した数日間「医療」に関して全く行政の支援は入らず小学校に避難していた他の有資格者の方々と共に急患の対応に追われながらいつか入るであろう支援を待ち続けていました。そんな時兵庫県のDMATの方々が私達の避難所鹿妻小学校に来てくれたんです。私達の力ではどうする事も出来ずこのままでは、目の前で苦しんでいる方々を見殺しにするような形になってしまふのでは…そんな絶望感や無力さに潰されそうになっていた時に一台の救急車に乗り現れた医師看護師や医療スタッフの方々が本当に頼もしく、張り詰めていた不安や緊張感が一瞬にして安堵感に変わったのを今でもしっかりと覚えています。…この人達が来てくれればここに居る医療を必要とする全ての避難者が助\*\*\*\*、(助かるこ



とができる?..)そう思いました。支援はDMATとして今日だけ

じゃなく継続的に入って頂ける、と言う話しを、その方々から聞き避難所の皆さんにそれを伝えた時には広い体育館からは大きな拍手が上がりました。薬を流され、病状が悪化していた方の家族の方小さな子供を抱えた親御さん達は涙し、その知らせを聞いていました。継続的にDMATからの支援が入ると聞きこれまで自分の家族の安否を十分に確認する事も出来ないでいた私達地元スタッフは避難所をその方々に任せ各自の家や家族の元に帰りました。今現在も兵庫県のDMATの方々が鹿妻小学校で医療活動を支援して下さっています。あの時のDMATの方々に御礼を伝えたく、ネット等で「兵庫DMAT川端医師」と、うる覚えの言葉を入力し今日まで探し続け、先程、貴社の記事からあの時のスタッフの活動の様子に掲載された内容の記事を見つけて、失礼かとは思いましたが貴社にメールさせて頂きました。もし差し支えなければ、あの時、多くの避難者の不安を一瞬にして消して下さった川端医師を始めとするスタッフの詳しい連絡先をお知えて頂く事は出来ないでしょうか?..

今回の震災においては兵庫県の方々からは本当に迅速で、適切な支援として長期に渡る活動が繰り返られていると実感しています。

とても遠く離れた場所から沢山の声や想い様々な形での支援を届けて頂いている事に個人としてだけではなく、地域の住民がとても感謝しています。今回のメールの件でも貴社からのお力添えを頂ければ、と願っています。宜しくお願いたします。

先日メールさせて頂きました宮城県の亀山です。石崎様今回の迅速なご対応本当にありがとうございます。私共の地域は殆どの方が津波で家を流されるか浸水により自宅のPCを始めとする、殆どの電化製品が使用出来ず携帯での検索に限界を感じていた時だったので貴社を通してあの時のDMATに辿り着けた事に深く感謝すると同時に大変嬉しく感じています。今あの時一緒に医療活動をしたメンバー(DMATの活動に比べたらただの素人集団ですが…)とも連絡が取れ川端医師に辿りつけよう、と言う知らせに皆が喜んでいました。私達被災地域はまだまだ皆さんからの助けや励みがなしには前に進む事も出来ない様な状態ですが兵庫県を始めとする、沢山の方々が背中を押してくれている事に力を頂かず歩んでいきます。兵庫県が私達にとって最大の指標でありこんな時はどうしたんだろう、兵庫県はどうやって現在の様な力強い復興\*\*\*\*

ました。私自身も一度も訪れた事がない地ですが兵庫県を、今はすぐく身近に感じています。いつか行ってみたいですね。川端医師へは私共の方からも手紙だけと言う形にはなるかも知れませんが改めて御礼をしたい、と考えています。もしお手数でなければ先日のメールを転送して頂いても宜しいでしょうか。また宜しければ、あの時両親が見つからず喘息の治療をして頂いた男の子はおばあちゃんが迎えに来てくれ、4月からおばあちゃん元で元気に小学校へ入学した事、今は喘息も落ち着いたので、最近ではDMATの様なお医者さんになりたい、と話している事を、川端医師にお伝え願えば、と思います。

今回の石崎様を始めとする貴社からのお力添えをこれからもずっと忘れずに一日でも早い復興へ向け頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございます。

東日本大震災

「ありがとう」

助けてくれた兵庫の救護班へ

子どもら「空から見て」

平成23年5月4日 神戸新聞掲載記事 (この記事の無断転載を禁じます)

# 健康のこと、くすりのこと 相談できる 調剤薬局

どちらの処方せんでも  
受付いたします

開局時間 月～金 8:30～17:30  
土(第1・3・5) 8:30～13:30  
定休日 第2・4土、日、祝

〒663-8137 西宮市池開町3-20  
Tel:0798-44-3577 Fax:0798-41-6400

# 処方せん受付 NISHI PHARMACY 西薬局 武庫川店

兵庫医大病院の処方せん受付致します！！

患者様のお薬に対する、不安や疑問を解決して、お薬を安心して正しく服用して頂ける様、スタッフ一同 取り組んでおります。

**お知らせ**

処方せんを、お受け取りになられた後、1号館1階 院外処方せんFAXコーナーより、処方せん用紙をFAXして頂きますと、お薬をお渡しするまでの時間が短くなり、大変便利です。西薬局にて、無料のFAX送信カードをご用意しております。お気軽にお申し付けくださいませ。 \* 阪神武庫川駅 西口すぐ！！

TEL: 0798-43-3232 FAX: 0798-43-3233  
月曜～金曜 9:00～18:00 第1・3・5土曜 9:00～14:00  
休日 第2・4土曜 日曜・祝日  
薬局前に P アリ

Offer of a better medical service is all

## より良い医療サービスの提供がすべてです。

兵庫医科大学病院、全国の医療機関の処方せんを受付けております。

お薬の事など、お気軽にご相談ください。皆様のご利用をお待ちしております。

**武庫川店** [営業時間] 月～金 8:30～17:30 第1・3・5土曜 8:30～13:30 [定休日] 第2・4土、日、祝日 〒663-8137 西宮市池開町3-20 MAY・MANAGEMENT,BLD 101 TEL.0798-44-3029 FAX.0798-44-3039

**武庫川駅前店** [営業時間] 月～金 8:30～17:30 [定休日] 土、日、祝日 〒663-8131 兵庫県西宮市武庫川町2-19 P1ビル1-A TEL.0798-42-3080 FAX.0798-42-3081

株式会社 阪神調剤薬局 <http://www.hanshin-dp.co.jp>

兵庫医大病院、全国の病院・医院の処方せん、お受けします。

FRONTIER ワタキューグループ 全国137店舗

## ワタキュー薬局 武庫川駅前店

あなたの健康サポートします。笑顔で、ていねいに対応いたします。各種クレジットカードもご利用いただけます。

月曜日～金曜日 9:00～18:00 第2・4土曜日、日曜、祝日はお休みです。  
第1・3・5土曜日 9:00～14:00

TEL 0798-42-6702 〒663-8131 西宮市武庫川町2番19P-1ビル1階  
FAX 0798-42-6703 ◀無料ファックスカードをご用意してお待ちしております。

〒663-8131 西宮市武庫川町2番19P-1ビル1階  
P 阪神武庫川駅西側出口すぐ 駐車スペースあり

## 「くすりの話」

### 薬の飲み合わせ(相互作用)って何？

2種類以上の薬を同時に飲むことによって作用が強くなったり、逆に弱くなったり、あるいは副作用が出やすくなったりすることを「薬の飲み合わせ(相互作用)」といいます。

薬の飲み合わせには、医療用の薬どうしの飲み合わせ、医療用の薬と市販薬との飲み合わせ、その他に薬と飲食物や健康食品との飲み合わせの問題もあります。

薬の飲み合わせによる薬害を防ぐ最も大切なことは、まず自分が服用している薬や健康食品の内容をきちんと医師・薬剤師にすべて伝えることです。その上で、医師・薬剤師から服用の仕方などの指示をうけるようにしましょう。

## 看護師・助産師募集

じぶんの色 きっと見つかる。

Sincerity 誠実(な行動)  
Warm あたたかい(対応)  
Evidence 根拠ある(実践)  
Ethics 倫理(的感性)  
Technique (確かな)技術

WE SET SWEET

心地よい療養環境・ケアの提供を目指しています

SWEETとは、私たちが心に備えたいと願う5つの要素の頭文字。看護部ではこのキャッチフレーズのもと一丸となって、チーム医療を支えています。

兵庫医科大学病院 人材対策室 フリーダイヤル 0120-456-199  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号 看護師・助産師採用ホームページ  
TEL 0798-45-6543 FAX 0798-45-6524 <http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/nursing/recruitment/>

## 市民健康講座のお知らせ

開催日	テーマ	講演者
6月15日(水)	手洗いや確認を止められない！ 強迫性障害について	精神科神経科 助教 林田 和久
6月29日(水)	子供の健康発達と食育	小児科 助教 高橋 千晶
7月13日(水)	腎臓の機能とその障害について	内科 腎・透析科 主任教授 中西 健
7月27日(水)	カプセル内視鏡を用いた 小腸疾患の診断	内科 下部消化管科 准教授 中村 志郎

開催場所・時間 10号館3階 第3会議室 15:00～16:30  
申込み不要、参加費不要

お問い合わせ先 兵庫医科大学病院 地域医療・総合相談センター  
電話番号：0798-45-6035(直通)